



『魔法先生ネギま！もうひとつの世界』

第一話

『壊滅!? ネギ・パーティ!!』

原作 赤松健

【登場キャラクター】

ネギ・スプリングフィールド

神楽坂明日菜

相原さよ(ぬいぐるみ)

朝倉和美

綾瀬夕映

絡繰茶々丸

古菲

近衛木乃香

早乙女ハルナ

桜咲刹那

長瀬楓

長谷川千雨

宮崎のどか

犬上小太郎

アーヤ

アルベール・カモミール

明石裕奈

和泉亜子

大河内アキラ

柿崎美砂

釘宮円

佐々木まき絵

鳴滝風香

鳴滝史伽

椎名桜子

那波千鶴

村上夏美

雪広あやか



ネカネ・スプリングフィールド

魔法学校校長

ドネット

スタン

フェイト・アーウェルンクス

月詠

フェイトの配下1

フェイトの配下2

女性事務員

警備兵1

警備兵2



まき絵

□アバンタイトル(ロンドン・タワーブリッジ付近)  
「ロンドン」  
「いたーッ」

と大声で指差すまき絵。その指先には、ロンドン観光をしているネギ、

明日菜、木乃香、刹那の姿。

まき絵に見つかって驚くネギたち。

ネギ

「なっ…」

ネギたちに向かって駆け寄るまき絵、裕奈、あやか。

まき絵、アスナの腕を取って

「もう離さないよー、アスナ」

嬉しそうにネギを抱き上げるあやか。

あやか

「お会いできましたわ〜」

明日菜

「あんた達、ホントに来たのーッ!?!」

まき絵

「ウキウキして(みんなまで)一緒にロンドン巡りしよーよー!この後、ネギ君たちはどっするのー?」

木乃香

「ネギ君の故郷(ふるさと)の村に、みんなで行くんよー!」

明日菜

明日菜、焦って制止しようと思わず木乃香の方を振り返る。

あやか

「あっ、ダメ、このか……!」

ネギ

「ネギ先生のふるさとですって……?」

文字通り、輝くような笑顔になって明日菜に迫るあやか。

明日菜、「しまった」という顔をして

明日菜

「ああっ」

あやか

「ああ、あの、いっ、いっ!」  
「一緒にさせていたでいて、よよ、よろしいでしょうか?」

ネギ

「は、はいっ。あの…その」

頬を染めながらも迫ってくるあやかの迫力に押されて、思わず了解して

しまっネギ。

明日菜、ネギを引っ張って小声で耳打ちする。

明日菜

「ちょっと、いいの?アサタの田舎って魔法使いわんさかじゃないの?」

ネギ

「(オロオロして)え、ええ…その…」

ドネットOFF

「大丈夫よ、ネギ君。皆さん連れてきて問題ありません。メルディアナ学校長の許可も得ています」

「許可も得ています」

そう言って、ネギたちの前にドネットが姿を現わす。

ドネットの顔を見てハッとする裕奈。

裕奈

「あーっ、あんたは!?!」

ネギ

「マクギネスさん!」

ドネット、ニコッと笑顔で答える。

互いに向き合って同時に問いかけるネギと裕奈。

ネギ

「え、知り合いですか?」

裕奈

「え、知り合いなの?」

木乃香のどか

□ウエールズ・フィッシュガード・ハーバー駅  
↑「ウエールズ・ペンブルック州」

まき絵

「わー、ここがネギ君の故郷(ふるさと)か!」

丘の上で村を見て感動する一同。

ネギは少し離れたところで感慨深そうな表情をしている。

明日菜

「……で、どうネギ?久しぶりの故郷の感想は」

ネギ

「その……ここを出たのはついこないだのハズなのに……もうずっと昔のことみたいで、  
なんだか実感が……」

戸惑うネギに微笑みかける明日菜。

明日菜

「……まあ、色々あったしねー。ホントッ色々」

遠くからネカネの声。

ネカネOFF

「ネギ—————」

声のする方の向くネギ。駆け寄ってくるネカネの姿を見て嬉しそうな表情。

ネギ

「お姉ちゃん」

ネギ、ネカネに向かって走り出す。

ネカネ

「ネギ……ッ」

ネギ

「お姉ちゃんッ」

ネカネに抱きつくネギと、それを抱きとめるネカネ。

ネギ

「お姉ちゃん元気だった?病氣してない?」

ネカネ

「ネギの方こそ、ご飯はちゃんと食べてた?風邪ひいてない?」

ネカネの手を握って話しかけるネギ。ネカネは膝をついてネギに話しかける。  
そんな微笑ましい光景に生徒達も笑みを浮かべる。

ハルナ

「あらあら」

亜子・アキラ

「わー」

小太郎

「ケッ……」

あやか

「フフフ……」

ネギ

「そうだ、お姉ちゃん、紹介するよ!僕の友達、生徒の皆さん」

ネカネ

「まあ……」

周りを見渡して驚くネカネ。

ネギ

「これでもまだ全員じゃないんだよ」

ネギとネカネの周りを取り囲んでいる生徒達、口々に挨拶する。

裕奈

「どもっ」



風香・史伽  
桜子  
美砂  
和美

「よろしく、おねえちゃん」  
「美人だねえ」  
「うん、予想通りの美人」  
「確かにたくさんいるね」

美砂

□ネギの実家・リビング  
飲んだり食べたり騒いだりしている生徒たち。  
「いやあ、スイマセンねえ。こんな大人数で押し掛けて、ごちそうまでいただいた…」

裕奈

「んふふ、ホント美味しいねっ、このお食事」

史伽

「いいですねー、こんな美人のお姉ちゃんがいる」

和美

「本当にネギ君の礼儀正しさも、お姉さんを見れば納得ですよ」

ネカネ

「(照れながら)あら…そんな。でも安心しました。こんなに元気で可愛い人たちに支えられて」

ネカネ、生徒たちに頭を下げて

ネカネ

「これからもネギのこと、よろしくお願いいたします」

ネギ

ネギ、そっとネカネを見つめて

ネカネ

「あの…お姉ちゃん」

ネギ

「えっ…なあに?」

「(ためらいながら)後でちょっと…お話しがあるんだけど…いい?」

□PO

□サブタイトル

□メルディアナ魔法学校・廊下(夜)

T「メルディアナ魔法学校」

ネカネ

「ええーっ、魔法の国へ行くですって!!」

戸惑うネカネ。

ネギ

「ごめん…お姉ちゃん」

一瞬しゅんとなるが、ネカネを見つめて

ネギ

「でも…父さんの手がかりを探すためなんだ」

ネカネ、しゃがんでネギの肩に両手を置いて、言い聞かせるように

ネカネ

「でも、あなたは10歳よ?…魔法世界(ムンドウス・マギクス)へ行ける扉(ゲ)



魔法学校校長

OFF

「私が手伝わせてもらった」

ネギとネカネに歩み寄る魔法学校校長。

ネカネ

「驚いて」校長！

ネギ

「嬉しそうに」おじいちゃん……久しぶりです、帰ってきました！」

魔法学校校長

『男子三回会わせれば刮目』(かつもく)して見よ』と言うが……」

魔法学校校長、感心した口調で

魔法学校校長

「見違えたぞ、ネギ」

ネギ

「あ……おじいちゃん」

魔法学校校長

「わかっておる。思ったよりこの日が来るのは早かったわ……」

後ろ向いて歩きはじめる魔法学校校長。振り向いて厳しい眼差しでネギを見つめる。

ネギを見つめる。

魔法学校校長

「ついてきなさい」

魔法学校校長

「あの事件の後……お前の村の者たちは、皆、ここに運ばれた」

□メルディア魔法学校・地下(夜)

薄暗い地下。魔法学校校長が目の前にある扉を開けると、暗い室内に光が差す。そこには無数の魔法使いの石像が。石像の一番前には、パイプをくわえた老人の石像がある。

老人の石像を見たネギ、茫然となって

ネギ

「スタン……さん……」

ネギ、ゆっくり老人の石像に近づく。

ネギ

「僕です……ネギです」

ネギの後ろで辛そうな表情をしているネカネ。

ネギ

「……あれから6年もたつのに、あなたは、あのときのままなんです……」

ネギも辛そうな、懐かしそうな表情で老人の石像に話しかける。

ネギ

「あのとき、スタンさんとお姉ちゃんが助けてくれなければ、僕はきつと村のみんなと一緒にここで石になったままだったと思います」

ネギM

「……そしたらアスナさんや3-Aのみんなにも会えなかったよ、スタンさん……」

「…」

スタンの石像を見つめるネギ。そのそばに、石になったネカネの父を見つめる。

ネギ

「！おじさん」

ネギの横に、幼いネギのイメージが浮かび上がる。

ネギ

「……おじさん、スタンさん。見て下さい。僕、こんなに大きくなりました」

ネギ、居住まいを正して





ネギM

ドネット

が広がってるんだ」

魔法世界への期待をみなぎらせて

「……よし、行くぞ！魔法世界へ……父さんの世界へ！」

転送開始の鐘が鳴る。

「時間です」

わあっとざわめくネギま部一同。

明日菜

「待つてましたーっ」

刹那

「いよいよですね」

古菲

「もー、ホント待たせたアルネー」

鐘が鳴り終わると、地面が発光する。

ネギたちと離れた石柱の陰では、裕奈たちが地面の発光に驚いている。

まき絵

「わっ、わっ、地面光ってるよ」

亜子

「何コレ？大丈夫？大丈夫なん？」

裕奈

「知らーんっ」

ウオンという発動音とともに光がさらに強くなり、ゲート中心の石柱からまばゆい光が空に向かって立ち上る。同時に、ゲートの上空に多層の巨大な魔方陣が浮かび上がる。  
刻一刻と強くなる魔法の発動音。

裕奈たちは空の魔方陣に驚き、逃げだそうとする。

まき絵

「やばいよ、やばいよ、」

裕奈

「みんな撤退ー」

光がさらに強くなり、強烈な光あたりは真っ白に。  
期待に満ちた目で空を見上げるネギ。  
そして、ドンッという衝撃音とともに転送完了。魔方陣は消え、あとには残響音だけが響く。

□ゲートポート

↑「ゲートポート」

ゲートに強烈な光が降り立つ。光が消えると、そこにはネギとネギま部の姿が。

こわこわ目を開けるハルナ。傍らのドネットに問いかけて

ハルナ

「もう着いたんですか？」

ドネット

「(〇)「ヨッとして(ええ到着よ」

緊張が解けて、ザワザワしだすネギま部。

ドネット

「あそこを上げれば入国手続き前に街を眺められるわよ」

と、発着ゲートの先にある展望テラスへの階段を指さすドネット。



ハルナ

「おおっ」

それを聞いてハルナは大喜びで階段へ向かって駆け出す。

ハルナ

「お先——」

夕映とのどかもハルナを追いかける。

千雨

「お——い、待てよお前ら。私も見たいぞ」

千雨と茶々丸、和美もハルナたちを追って走り出す。

ドネット

「ではネギ先生も、まずは杖など荷物の受け取りを」

ネギ

「ハイッ」

ネギはドネット、刹那と一緒にゲートポートカウンターへ。

× × ×

亜子

「なっ…ななな」

ネギたちから離れた石柱の陰で震えているローブ姿の人間が5人(裕奈、亜子、アキラ、まき絵、夏美。この段階では顔は見えません)。

裕奈

「今の何?」「アッ、アッ」

まき絵

「知らないよー」

夏美

「ちよっと私、その辺の人に聞いてくるね」

裕奈

石柱の影から飛び出す夏美を見て慌てる裕奈。

裕奈

「わっ、ハカッ」

□展望テラス

壮大なメガロメセンブリアの都市景観が広がっている。

ハルナ

「おお——っ」

のどか

「すっ…っ…いー」

夕映

「おおおお」

驚きのあまり絶句する3人。

そこへ千雨と茶々丸、和美、さよ人形が遅れてやってくる。千雨は騒いでいるハルナ達を見て、やれやれといった表情。

□ゲートポートカウンター

女性事務員が、カウンターに武器を封印した箱を置く。

女性事務員

「杖、刀剣など武器類は全てこの封印箱の中にあります。強力な封印で、ゲートポートを出まさんと開錠できませんので御了承ください」

トポートを出まさんと開錠できませんので御了承ください

ネギ、頷いて箱を受け取る。

ドネットOFF

「ネ、ネギ先生——ッ」

ドネットの慌てた声を聞いて振り返るネギ。

するとそこには、息を切らしたドネットの姿が。





おかしくはない。どんな嚴重な警備でも事故や事件が起ってしまってもいいのは現実世界の方でもあったことだ……!」

カモ

「兄貴?」

ただならぬ様子のネギを心配して声を掛けるカモ。

ネギはそれには答えず、刹那に鋭く指令を出す。

「刹那さん、再度探知の術をお願いします」

「(ハッとして)!!」

刹那

「警備兵さん、ここに警備の人は何人います?」

警備兵1

「(訝しげに)何?何を言ってるんだ君は」

ネギ

ネギ、警備兵の疑問を封じるように厳しい口調で

「ありったけ呼んでください。緊急事態です!」

警備兵1

「な……しかし君」

ネギ

「(命令口調で)早くッ」

ネギ、バキとネギま部に指示を出していくネギ。

ネギ

「古老師、アスナさん、こっちに来てまき絵さん達を守って!」

まき絵

「ネギ君どうしちゃったの!」

明日菜

「ち、ちよつと何?」

警戒感をみなぎらせるネギの様子に動揺するまき絵と明日菜。

ネギ

「楓さん・マクキネスさんは入国管理局です。小太郎君はテラスのどかさん達

「にっついて!」

楓

「つむ」

小太郎

「ぬ?おっしや」

楓と小太郎は、場慣れた口調で、冷静にネギの指示に従い、警戒態勢をとる。

ネギ

「アーヤ、携帯杖は持ってるね? 僕と二人で魔法障壁を全力で展開して!」

アーヤ

「ネ、ネギ!何言ってるのよ」

カモ

「兄貴」

警備兵1

「オ、オイ君。この魔法の使用は……」

アーヤやカモ、警備兵は突然のネギの指示の意味がわからずオロオロしている。

刹那

「ネギ先生」

ネギ

「僕の思い通りなら笑い話で済みます」

刹那の問いかけに緊張した声で答えるネギ。

□ゲートホート・展望テラス階段入口

フェイト(口元だけ)「……僕に気付いたのか。あり得ないことだけど、それも血の成せる技か……か?」



遠くからネギの様子を見て眩く。  
フェイト(口元だけ)「まあいい、挨拶だよ」

と「石の槍」をネギに向かって放つ。

□ゲートポート

唸りを上げて飛来する石の槍。

「(気づいて)ー!」

「ネギィッ」

石の槍に気づいて叫ぶ明日菜。

その直後、ネギの右肩を石の槍が貫く!

「(茫然として)…これは『石の槍』——致命傷だ、まずい、まずい」

右肩を貫いた石の槍から血が滴る。

「ま、まさか…そうだ、間違いない。これは修学旅行の…!!」

ネギの目に駆け寄る明日菜とアーニヤが映る。

「アーニヤ、アスナさん」

ゆっくりと崩れ落ちるネギ。

「ダメだ」

力を振り絞って声を出そうとするネギ。

「逃…」

「ネ…」

ネギ、大量の血を吐いて倒れ込む。

「ネギ——ッ」

明日菜の悲痛な叫び声がゲートポートに響き渡る。

「う…」

苦痛にうめくネギ。体の下から大量の血があふれてくる。

ネギに駆け寄る明日菜、刹那、楓、小太郎。

「へ…」

まき絵や裕奈、アキラ、亜子は突然の出来事に茫然自失状態。

「ネギ先生…ッ!!くっ、古(クー)ー!このかお嬢様をここへッ!」

ネギま部のメンバーに慌てて指示を出す刹那。

明日菜、ネギにすがりついて。パニック状態。

「ネギッ、ネギ!? 何でっ…やだどうしよう、刹那さんッ」

「う…」

古菲が木乃香を抱えてやってくる。

「ネギく…」

古菲の腕の中から降りて、ネギに近寄る木乃香。

「え…何」レ…」



ネギの右肩を右の槍が貫いているのを見て茫然となる。

アーヤ 「ネ……ネギィン」

明日菜 「ネギ……ネギッ、しっかりしてえっ」

カモ 「兄貴ッ」

明日菜、アーヤ、カモは危険なネギの様子を見て激しく取り乱す。

アキラ 「(青ざめた顔で)……」

裕奈 「な、何?」 「……? 映画の撮影? アスナ迫真の演技……いや……ドッキリ?」

まき絵 「ネ……ネギ君っ」

巫子 「(くらくらとして) あっ……血……」

裕奈たちは、眼前の状況を受け入れられず、パニック状態。

刹那、木乃香の肩をつかんで、必死に呼びかける。

刹那 「お嬢様、しっかりーネギ先生は命にかかわる怪我です。お嬢様のアーティファ

クトをー」

木乃香 「(ハッとして) う、うん。で、でもせつちゃん」

木乃香、途方に暮れた表情で封印箱を見て

木乃香 「ウチのパクテオカード預けたままやー」

急いで封印箱に駆けより、箱を取り上げる刹那。

重傷のネギを目の当たりにして、焦る一同。

木乃香 「どないしょー、3分経ったらウチの力じゃ治せへんようになってまうえっ」

明日菜 「その箱、どうにかして開けないの?」

刹那 「む、無理ですっ。どんな術師にも理論的に開錠不可能な魔法で施錠されてい

るんです」

警備兵1 「安心なさい。すぐに応援が駆けつける。最高の治癒術師も来る。その子は助か

るよ」

警備兵1の危機感のない物言いに、イラッとして言葉がきつくなるアー

ヤ。

アーヤ 「じゃあ、もっと早くしなさいよおっ」

ネギ、息も絶え絶えになりながら、必死に明日菜に話しかける。

ネギ 「ダメ……ダメで……アスナさ……」

「ネギ!? ダメよ喋っちゃ」

半べそになりながらネギを氣遣う明日菜。

「逃……逃げ……て」

ネギ 「え!？」

次の瞬間、ゲートポートに強烈な雷撃が降り注ぐ。

「がっ」

警備兵1

「ぐあっ」

警備兵2

まき絵たちは小太郎が、ネギたちは楓と刹那が雷撃を防ぐが、

警備兵1と2は雷撃に撃たれ、倒れる。



アーヤ 「驚いて」警備兵さんっ!!」

そこに遠くからフェイトの淡々とした声が響き渡る。

フェイト 「久しぶりだね、ネギ・スプリングフィールドとその仲間達」

「コツコツと」足音が響く。

フェイト 「幾分力をつけたようだけれど、僕の**一撃**でこの有り様だ」

フェイトと月詠（この段階ではまだ顔は見えませんが）、フェイトの配下1、

2が展望台へ続く階段から姿を現わす。

フェイト 「中途半端な力ほど無様なモノはないね。そう思わないか？ネギ君」

小太郎 「てめえっ」

刹那 「フェイト・アーウェルンクス!?」

楓 「!」

攻撃の素振りを見せたフェイトに攻撃をしかける刹那、小太郎、楓。

楓 「(ハッとして)ー!」

楓は突如背後に出現したフェイトの配下の短剣攻撃を弾き返すが、続く短剣の一撃で地面に倒される。短剣は辛うじて避けたものの、短剣が黒い無数の紐に変化し、楓の体を覆う。

フェイトの配下1 「メラーン・カイ・スファイリオン・デズモーターイオン」

詠唱とともに楓を覆う黒い紐は収束。詠唱が終わると、黒い紐は黒い球体となり、「ゴトリ」と地面に落ちる。

小太郎 「くっ」

月詠と激しい攻防を繰り広げる小太郎。しかし一瞬の隙を突かれ、月詠の一撃を受けてしまう。

月詠 「月見乃夜桜」

桜色の光柱と桜の花びらに覆われる小太郎。

小太郎 「はらっ?」

光と花びらが消えると、小太郎は眠り込んでしまう。

x x x

石柱の陰に隠れている夏美（フードを被って顔は見せませんが）、小太郎がやられるのを見て悲鳴をあげる。

夏美 「!」「コタロー君っ!」

x x x

刹那 「くっ」

フェイトに向かう刹那。対するフェイトは石柱を出現させ、その衝撃で大量の瓦礫を刹那に向けて撃ち出すと、瓦礫に紛れて刹那に膝蹴り。

刹那 「!!」

フェイト、そのまま刹那を地面に打ち落とし、さらに腹部に拳を放つ。

刹那 「ガハッ」

刹那、フェイトの一撃を受け、口から血を吐いて倒れる。



アーヤ

「!!!」

古菲

「楓!!」タロ!!」

明日菜

「刹那さん!!!」

一瞬のうちに仲間が倒され、驚く明日菜、古菲、アーヤ。

明日菜、悔しさと怒りで涙目になりながら

「な、何なのよあんだ達っ!何が目的!?私達をつけて来てたの!?!」

フェイト、無表情に淡々と

フェイト

「尾行?まさか。君達にここで出会ったのは全くの偶然だよ」

□ゲートポート・外観

フェイトOFF

「……僕達の目的は……。君達は今回は無関係だ」

□ゲートポート

アーヤ

「むっ、むむむ無関係でっ、こ、こんなんっ……なん、ななな何様なのよ、あんだ達イッ」

怒りの声をあげるアーヤに対して、あくまで淡々と答えを返すフェイト。

フェイト

「不幸な事故だよ。まさかネギ君が僕達に気付くとは思わなかった。ただ、気付かれました以上仕方ない。応援を呼ばれる訳にはいかないからね」

フェイト、ネギに向かって歩みながら冷たい声で、

フェイト

「……念のため言うておくと 誰も助けにはこないよ。ここは今、完全に外部と隔絶している」

刹那

「……」

呻きながら、楓が封じ込められた黒い球と倒れた小太郎を見る刹那。

刹那M

「マズイぞ、打つ手が無い。ネギ先生の怪我も、もう……どうする……どうすれば……」

必死に考えを巡らせる。

明日菜M

「もう2分以上は絶対経ってる。武器がないと私何もできないよ。どうしよう……どうしよう……」

ネギの危険な容態に焦りを隠せない明日菜。

明日菜M

「私……」

明日菜、自分に魔法無効化の能力があり、封印箱を壊せるかもしれない「マジック」を「気」でなく。

フェイト

「ネギ君、君の仲間達……僕にとっては取るに足らない」マジックにも等しい存在だ。特に今消す意味も見出せない。けど、消さないでいる理由もまたないね。

「丁度いい」



フェイト

冷淡な言葉を発しながら、ネギに向かって歩を進めるフェイト。  
「僕の永久石化で、全員舞台から退場してもらおうかな」

と、刹那の方を向くフェイト。指先に魔法発動の光を発し、ぞっとする  
ような冷たい表情で刹那の方を向く。

アーヤ

「!!」

刹那M

「(歯噛みして)お嬢様……!!」

フェイト

「では桜咲刹那、君から……」

ネギ

「ッ!!!!」

フェイトの指から魔法が放たれようとする瞬間、ネギが左手で右肩か  
ら石の槍を引き抜くと、抜いた石の槍でフェイトの顔面を殴打。

フェイト

「!?!」

ネギの一撃を受け、吹き飛ぶフェイト。

古菲

「!!」

木乃香

「ネギく……!?!」

まさかのネギの一撃に驚く古菲と木乃香。

ネギ

「そんなことは、この僕がさせない」

右肩から激しく出血し、苦しい息をつきながらも、燃えるような気迫  
でフェイトの前に立つネギ。

ネギ

「僕が…相手だ」

啞然とした表情のフェイト。满身創痕のネギを見て呆れた口調で

フェイト

「やれやれ…死ぬよ? 君に死なれると僕も困る…。それに武器も杖もなしに

どっやっつて…」

フェイトの言葉を遮るように激しい破壊音が。フェイトが音のした方を  
見ると、明日菜の拳が封印箱を破壊している。

明日菜、涙をこぼしながら

明日菜

「……ネギ」

封印箱から光が漏れる。

喜びの表情でネギの名を呼ぶ明日菜。

明日菜

「ネギ!!」

次の瞬間、封印箱から激しい光とともに全員の武器とパクティオーカ  
ードが飛び出す。

明日菜、自分と木乃香のパクティオーカードをつかむと、木乃香の力

ードを木乃香に向かって投げ渡す。

明日菜

「このっ」

木乃香

「っんっ」

カードを受け取る木乃香。明日菜と同時にアーティファクトを出す。

明日菜・木乃香

「来たれ!(アデアット)」

光とともに、ハマノツルギを手に、戦闘用の衣装に身を包んだ姿で現わ

れる明日菜。木乃香は狩衣に身を包み、扇を手にして現われる。

□展望テラス

激しい戦闘音を聞いて、ゲートポートの見える場所へ走る和美、夕映、茶々丸、ハルナ、千雨、のどか。

和美 「何々？何なの今の音!？」

ハルナ 「何があったのよー」

千雨 「ちっ…また厄介なことかよっ」

のどか 「あっ…」

沢山の石柱が地面から突き出し、魔法の着弾によって煙を上げているゲートポートを見て驚きの声をあげるのどか。

ハルナもゲートポートを見て驚く。

「何アレ事故?」

「む…!？」

ゲートポートにフェイトの姿を認めて驚愕する夕映。

「あの白髪(しろかみ)の少年はー!」

「!？」

負傷したネギを見て悲鳴をあげる。

「赤い…血…?ネギ先生が怪我をー!？」

□ゲートポート

ハマツルギを構え、決死の表情を浮かべる明日菜。

「ネギの怪我を治すわよ!多分リミットまで、もう30秒も無いッ」

「うっ、うん。でもアスナー、あんなヒドイ怪我、触れるくらい近くに行かんと治

せへんッ」

不安そうな声をあげる木乃香を励ますように

「わかってる、任せて!くーふえ、援護をッ」

「らじゃアルー!」

しかし明日菜と古菲の隙について、フェイトが木乃香に迫る。

「失礼を、お姫様」

フェイトの指先が光、木乃香に石化の魔法をかける。

「石の息吹!!(フノエー・ペトラス)」

石化ガスに覆われる木乃香。

「(焦って)コノカッ」

「!」

木乃香、刹那の羽に包まれ、石化ガスから守られている。



木乃香 「あ……っ？」

刹那、羽を広げてガスを吹き飛ばすと、怒りの表情で

刹那 「お嬢様には 指一本触れさせん」

木乃香 「(嬉しそうに)せつちゃん!!」

刹那 「七首・十六串品(シーカ・シシクシロ)」

無数の短刀を放つと同時に、夕風と短刀で猛然とフェイトに斬りかかる刹那。

フェイト 「む…む」

刹那の勢いに押されたのか、ひるむフェイト。その隙を見逃さずフェイトを両断する刹那だが、斬ったはずのフェイトは水になってしまふ。

刹那M 「幻影!」

刹那の背後に出現したフェイト、無数の石の槍を刹那に放とうとする。

古菲 しかし次の瞬間、古菲の一撃を食らい、吹き飛ばぶ。

古菲 「やた力?」

一瞬期待の声をあげる古菲だが、土埃の中から魔法障壁に守られ、無傷のフェイトを見て苦々しげに

古菲 「なんて…甘い訳がないアルネ」

x x x

ネギを抱きかかえ、フェイトから離れた場所でネギを治療しようとする明日菜と木乃香。

明日菜 「このかつ」

木乃香 「うんっ」

明日菜がネギを降ろした瞬間、小太郎の警告が届く。

小太郎OFF 「姉ちゃん、上やっ!」

明日菜 「え」

上を見ると、頭上から闇の魔法が。

木乃香 「きゃあああ」

間一髪で魔法を防ぐ明日菜。

フェイトの配下 「…」

明日菜、頭上に浮かんでいるフェイトの配下を睨んで

明日菜 「……く、やってるわよ!」

月詠 「ウフフ…あなたも随分、美味しそうに育ちましたなあ、お嬢様」

と、いつの間にか明日菜の背後に回り込んだ月詠が斬りかかってくる。

明日菜M 「しまっ…」

次の瞬間、小太郎が無数の蹴りを放ち、月詠を吹き飛ばす。

月詠 「みぎゃ!?!」

x x x



フエイト

「む…」

眩くフエイトの足元に黒い球体がぶつかる。

フエイト

「？」

黒い球体が弾け、中から巨大十字手裏剣が飛び出しフエイトを襲う。

フエイト

「！」

フエイト、後ろに飛んで手裏剣を避ける。

× × ×

明日菜と小太郎、背中合わせになって攻撃に備える。

明日菜

「「タロ、あんたやられたんじゃ!?!」

小太郎

「ああ、やばかったわ!それよりネギは!?!」

息を切らしながら小太郎に向かってわめくアーニヤ。

アーニヤ

「ごら、「タロ!?!回復呪文のお礼はどうしたのよ!?!」

× × ×

巨大十字手裏剣の影から姿を現わす楓。体中から黒い粘液を垂らし

ながら、珍しく余裕のない表情で

楓

「ぶっ…完全!?!してやられたで!?!さるな、死ぬところだ!?!」

× × ×

木乃香が瀕死のネギに治癒魔法をかけようとしている。

木乃香

「氣吹戸大祓(いぶぎどのおおはらえ)」

肅々と祝詞を唱える木乃香。

木乃香

「高天原爾神留坐(たかまがはらにかむづまります)神漏伎神漏彌命以(かむろきかむろのみことをもちて)皇神等前爾白久(すめがみたちの まえにもうさく)苦患吾友乎(くるしみうれうわがともを)護惠比幸給閉止(まもりめぐまいさきわえたまへと)藤原朝臣近衛木乃香能(ふじはらのあそみこのえこのかの)生魂乎宇豆乃幣帛爾(いくむすびをうづのみてぐらに)備奉事乎諸聞食(そなえたてまつることをもろもろきしめせ)」

ネギ

「(瀕死で)このか…さ…」

木乃香の詠唱とともに、ネギの傷口に柔らかい光が灯る。

ネギ

「ぐ」

激しい閃光とともに体組織が再生する生々しい音がする。

急激な再生に伴う痛みで、思わず悲鳴をあげるネギ。

ネギ

「うわあああぁっ」

木乃香

「大丈夫」

そんなネギを、後ろから優しく抱き抱える全裸の木乃香のイメージ。

木乃香

「大丈夫や、ネギ君」

光が収まると、ネギの痕は、跡形もなく消え去っている。

木乃香

「良かったあ、間に合っつて」

木乃香、涙ぐんで後ろからネギをギュッと抱きしめる。



明日菜  
小太郎

「ネギ!!」  
「っしー!反撃や」

ちらりと振りむき、ネギの傷が治ったのを見て、元気を取り戻す明日菜と小太郎。

刹那  
楓  
古菲

「楓!」  
「スマヌ、油断したでいやる」  
「やられるハズないと思てたな」

刹那、楓、古菲も体制を立て直し、フェイトと対峙する。

アーニヤム

「ネギ……」

と、そつとネギの方を振り向くアーニヤム。

理解を超えた展開に混乱しているまき絵。裕奈は混乱しながらもじつと目の前の出来事を見つめている。

まき絵

「はわわわわ」

裕奈

「(つばを飲みこんで)……」

フェイト、気迫の「もった田でよろよろ」と立ち上がるネギを見て

フェイト

「…なるほど、悪くないな。君の仲間を」**シ**と言った」**ト**は取り消そう

ネギ

「君達は一体何者なんだ? 一体何を」

激しくフェイトを問いつめるネギ。

しかしフェイトは素っ気ない口調で

フェイト

「残念だけど、そろそろ時間だ。今回はこれでお別れだよ」

ネギ

「待って!君が今何をするつもりでも、僕が止めるぞ!!」

怒りとともに、強い決意を口にするネギ。

ネギの言葉を聞きながらすつと目を瞑るフェイト。次の瞬間、凄まじい

スピードで移動し、ネギの顔面を殴りつける。

ネギ

「!?!」

不意をつかれて吹き飛び、昏倒するネギ。

フェイト

「その有り様でどっやってっ」

刹那と小太郎が慌ててフェイトを攻撃するが、フェイトは既にゲート上

空に瞬間移動している。

フェイト

「それにもう遅い」

と言って、呪文を唱える。

フェイト

「ヴィシユ・タル・リ・シユタル・ヴァンゲイト おお地の底に眠る死者の宮殿…

(オー・タルタローイ・ケイメノン・バシレイオン・ネクロン)」

フェイトの配下2がゲートポート中央の石柱に手を触れると、石柱に

ひびが入る。

フェイト

「僕達はどう目的を果たした」

フェイトの頭上に巨大な黒い石柱が無数に現われる。

フェイト

「冥府の石柱(ホ・モノリートス・キオン・トゥ・ハイドウ)」



ネギ一行  
フェイト

「絶句(?!)」  
「じゃあね」

淡々としたフェイトの言葉とともに、無数の黒い石柱がゲートに向けて落下。次々とゲートを破壊していく。

× × ×

ゲートに落下する巨大な黒い石柱と、離れていても伝わってくる激しい衝撃に慌てふためくハルナ達。

ハルナ

「なああああっ」

のどか

「ひゃあああ」

× × ×

裕奈

「「ぎゃあああ?!」

まき絵

「何々、これー?」

ゲートが破壊される凄まじい衝撃に、怯えるまき絵、裕奈、亜子、アキラ。

× × ×

夏美

「キャアアアアッ」

石柱の陰に隠れている夏美も激しい衝撃に悲鳴をあげる。その拍子に被っていたフードが脱げて顔が見える。

× × ×

そんな混乱をよそに、フェイトは、ゲート中央の石柱の元に降りる。

フェイトの配下2「楔の破壊完了。離脱用ゲート確保。脱出できます」

フェイト

「うん…」

月詠

「ほなスラかりましょからっ」

フェイト

『強制転移』。彼らをバラバラに…世界の果てへ」

フェイト、冷たい目でネギを見つめると、フェイトの配下2に対して頷くフェイトの配下2。ゲート中央の柱に無言で手を触れると、手が光る。

今にも立ち去ろうとしているフェイトをネギが呼び止める。

ネギ

「待って」

フェイト

「ネギ君…」

フェイト、淡々とした口調ながら、挑発めいた調子で

フェイト

「こちら側へ来るにはキミは、少しぬるま湯に浸かり過ぎていたんじゃないかな?ここからの現実には、僕からキミへのプレゼントだよ」

その言葉とともに、ゲート中央の石柱が砕け散る。フェイトは配下とともに転移して姿を消す。

ネギ

「悔しそっ(汗)」

フェイトが姿を消すとともに、ネギたちの足元に魔方陣が浮かび上がり、光を放つ。

明日菜 「これは…」  
カモ 「(焦りの表情で)兄貴、こいつは強制転移魔法だ！マズイぞ」

ゲートの震動がさらに激しくなる。  
アーニヤが危機感を声に滲ませて

「あいつらゲートの要石をつ…世界と世界の楔を壊してったわ！多分扉を繋ぎとめていた魔力が暴走するッ」

その言葉を聞いて、必死の形相でみんなに指示を出すネギ。

ネギ 「みんな集まって、手を…」

ゲートポートの建物の外壁が吹き飛ぶ大爆発が起きる。

× × ×

和美、夕映、茶々丸、ハルナ、のどかが激しい閃光と衝撃に吹き飛ばされ、悲鳴をあげる。

和美・夕映・茶々丸・

ハルナ・のどか 「きゃあああッ」

× × ×

激しい閃光があたりを埋めつくし、生徒たちがちりぢりに吹き飛ばされ、転移していく。

明日菜 「ネギッ」

ネギに必死に手を伸す明日菜。

明日菜 「手をッ」

ネギ 「ア…スナさ…」

ネギ、懸命に明日菜の手をつかもうとするが、あと一步の所でさらなる爆発が起こり、明日菜と離れてしまう。

明日菜 「キャアアアアッ」

ネギ 「うわあああッ」

ネギ、遠ざかっていく明日菜に手を伸ばすも、意識が遠のいていく。

□E D

※実際のアニメに収録されている音声はシナリオと異なる場合がございます。